

一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書XIX

鳥取県西伯郡大山町

NISHI TUBO KAMI TAKA O BARA  
西坪上高尾原遺跡

NISHI TUBO SHIMO MA DA GA MINE  
西坪下馬駄ヶ峰遺跡

2011

鳥取県埋蔵文化財センター  
国土交通省 倉吉河川国道事務所



西坪上高尾原遺跡 石器出土状況(北西から)



1 西坪上高尾原遺跡 石器出土状況(西から)



2 西坪上高尾原遺跡出土石器

## 序

一般国道9号名和淀江道路の改築に伴う本発掘調査は、平成12年度から行われ、平成21年度末時点で遺跡数は28遺跡、調査面積は延べ約21万平方メートルに及んでいます。

この発掘調査は、平成17年度から鳥取県直営の事業となり、鳥取県埋蔵文化財センターが担当することとなりました。

本書で報告しております西坪上高尾原遺跡では、縄文時代の石器製作址を確認しました。この遺跡では、1万点を超える石器が出土しており、黒曜石製の石鏃を中心に製作していたものと考えられます。また、西坪下馬駄ヶ峰遺跡では縄文時代の落とし穴を多数確認しました。これらの調査成果は、この地域の歴史を解明するための重要な資料となると考えます。

鳥取県埋蔵文化財センターでは、発掘調査により明らかとなった遺跡や出土品を活用し、その普及啓発に努めることも重要な業務としております。

西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡では、写真パネルや遺物の展示説明会を開催し、地元の方々を中心に御参加いただき、その素晴らしさを実感していただきました。

本書は、その調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

鳥取県埋蔵文化財センター

所長 久保 穰二郎

## 序 文

一般国道9号は山陰地方を東西に結ぶ主要幹線道路であり、広域交通はもとより、観光交通、生活交通など、多様な交通を担う重要な路線です。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市(鳥取一鳥根県境)までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

名和淀江道路は、西伯郡大山町から米子市淀江町にかけての多種多様な交通による交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保のほか、災害時の緊急輸送路の代替路線としての機能分担などを目的とし、さらに山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う高規格幹線道路(自動車専用道路)として整備を行っています。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成21年度は、「西坪上高尾原遺跡」、「西坪下馬駄ヶ峰遺跡」、「小竹上鷹ノ尾遺跡」、「倉谷西中田遺跡」、「倉谷荒田遺跡」、「豊成上神原遺跡」、「豊成上金井谷峰遺跡」、「松河原上奥田第3遺跡」の8遺跡の本調査について、鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査を行いました。

本書は、上記の「西坪上高尾原遺跡」、「西坪下馬駄ヶ峰遺跡」の発掘調査の成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深め、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの皆さまに、心から感謝申し上げます。

平成23年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所  
所 長 江 角 忠 也

## 例 言

1. 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが、一般国道9号(名和淀江道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成21年度に行った<sup>にし</sup>西<sup>つばかみ</sup>坪上高尾原遺跡、<sup>おぼら</sup>西坪下馬駄ヶ峰遺跡の本発掘調査成果である。
2. 本報告書に収載した遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである。  
西坪上高尾原遺跡           ：西伯郡大山町大字西坪字上高尾原929-1       ほか 調査面積：1,278㎡  
西坪下馬駄ヶ峰遺跡       ：西伯郡大山町大字西坪字下馬駄ヶ峰934-1       ほか 調査面積：5,600㎡
3. 本報告書で示す標高は、2級基準点H18-2-8を基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。磁北は、座標北に対し、約6°40′西偏する。なお、X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
4. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「淀江」「御来屋」「船上山」、大山町作成の1/5,000「大山町地形図」を使用した。
5. 本報告にあたり、西坪上高尾原遺跡の調査前航空写真撮影、基準点測量・方眼測量、調査前後地形測量、西坪下馬駄ヶ峰遺跡の調査前後航空写真撮影、基準点測量・方眼測量、調査前後地形測量、西坪上高尾原遺跡の出土石器石材産地同定、出土炭化材の年代測定を業者委託した。
6. 本報告書に掲載した遺物の実測・浄書は埋蔵文化財センター及び同発掘事業室調査担当で行った。
7. 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。
8. 本報告書の編集は加藤・長尾が行った。執筆は調査担当職員が分担して行い、目次に執筆者名を記した。
9. 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。
10. 現地調査及び報告書作成にあたっては、下記の方々、機関に御指導・御協力いただいた。明記して深謝いたします。(五十音順 敬称略)  
竹広文明、大山町教育委員会

# 凡 例

1. 遺物の注記における遺跡名には以下の略語を用い、合わせて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。

西坪上高尾原遺跡：タカオハラ                      西坪下馬駄ヶ峰遺跡：下マダ

2. 本報告書で用いた遺構の略号は以下のとおりである。

SD：溝・溝状遺構    SK：土坑    P：ピット

3. 本報告書における遺構番号(新)は発掘調査時のもの(旧)と変更している。新旧の遺構名・番号の対応は各遺跡ごとに付した遺構名新旧対照表で示している。

4. 本書における実測図の縮尺については、特殊なものを除き基本的に以下の縮尺としている。

遺構図            SD：1/40・1/80、SK：1/40、P：1/20、遺物出土状況：1/20

遺物実測図    土器：1/3・1/4、石器：1/2・2/3・1/3・1/5

5. 本書における土層名称・土器色調は、基本的には『新版 標準土色帖』による。

6. 本書における石器の器種及び石材の略称は、以下のとおりである。

器種    石鏃：AH    石鏃未製品：AHBk    スクレイパー：Sc    石錐：Dr

加工痕のある剥片：RF    使用痕のある剥片：UF    剥片：Fl

両極剥離痕のある石器：PE    両極剥離痕のある石器削片：PESp

石核：Cr    原形：Bk    碎片：Ch    石器破片：BT

石材    黒曜石：Ob    サヌカイト：Sn    硬質安山岩：An    粗粒軟質安山岩：An'

流紋岩：Rh    凝灰岩：Tu    花崗岩：Gr

7. 本書における遺物出土ポイントの記号・色調は、特に断りがない限り以下のとおりである。

土器 ※

黒曜石製石器 ▲(AH)・▼(AHBk)・■(Sc)・※(Dr・BT)・●(RF)・◎(UF)・

×(Fl・Sp・Ch)・◆(PE)・⊕(Cr)・★(Bk)

黒曜石製以外の石器 △(AH)・□(Sc)・○(RF)・×(Fl)・◇(PE)・⊕(Cr)・◎(その他の石器)

8. 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗りとし、それ以外のものは白抜きで示している。また、遺物実測図中におけるトーン及び記号は、特に断りがない限り以下のとおりである。

■：被熱範囲    ■：使用痕範囲    ▭：側縁の潰れ範囲    ○：側面の潰れ範囲

→：ケズリの方向(砂粒の動き)

9. 土器観察表の法量記載における△は現存値、※は復元値を示す。

10. 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献を参照した。

## 【参考文献】

小林達雄編 1989『縄文土器大観4』小学館

井上智博 1996「山陰西川津式土器の土器型式構造と恩原2遺跡土器群の占める位置」『恩原2遺跡』恩原遺跡発掘調査団

小林青樹 2000「縄文時代早期末葉から前期前葉土器群に関する問題」『福呂遺跡』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

濱田竜彦 1999「古市河原田遺跡出土の突帯文土器について」『古市遺跡群I』(財)鳥取県教育文化財団

清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年-山陽・山陰編-』木耳社

# 目 次

序	
序文	
例言	
凡例	
<b>第1章 調査の経緯</b>	
第1節 調査に至る経緯	(加藤) 1
第2節 調査の方法と経過	(加藤) 2
1 調査区の名称と調査方法	2
2 本発掘調査の経過	2
第3節 調査体制	(加藤) 4
<b>第2章 遺跡の立地</b>	
第1節 遺跡の立地	(牧本) 5
第2節 周辺の遺跡	(牧本) 6
<b>第3章 西坪上高尾原遺跡の調査成果</b>	
第1節 遺跡の概要	(加藤) 9
1 遺跡の立地	9
2 基本層序	9
3 調査の概要	11
第2節 遺構	(加藤・長尾) 13
1 溝	13
2 土坑	14
3 ピット	16
4 道路遺構	16
第3節 出土遺物	(加藤・長尾・北) 20
1 出土遺物の記録方法・概要	20
2 石器	20
3 土器	56
第4節 自然科学分析の成果	60
1 西坪上高尾原遺跡出土石器の石材産地同定	(長尾・有限会社 遺物材料研究所) 60
2 西坪上高尾原遺跡出土炭化材放射性炭素年代測定	(株式会社 パレオ・ラボ) 80
第5節 調査成果のまとめ	(加藤・長尾) 83
西坪上高尾原遺跡における縄文時代の石器製作	83





第96図 SK15	103	第102図 グリッド別遺物出土状況図	108
第97図 SK16	105	第103図 遺構外出土土器	109
第98図 SK17	105	第104図 遺構外出土石器	110
第99図 SK18~SK21	106	第105図 西坪下馬駄ヶ峰遺跡	
第100図 SK22	107	落とし穴配置図	113
第101図 P1~P4	107		

## 挿表目次

### 西坪上高尾原遺跡

表1 遺構名新旧対照表	12
表2 石器石材別組成表	22
表3 土器観察表	59
表4 西坪上高尾原遺跡出土黒曜石製石器 の外観的特徴による分類	60
表5 西坪上高尾原遺跡出土安山岩製石器 の外観的特徴による分類	60
表6 西坪上高尾原遺跡出土石器の外観的特徴 による分類と産地同定結果の対照	61
表7 黒曜石原産地原石群名(1)	70
表8 黒曜石原産地原石群名(2)	71
表9 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と 標準偏差値(1)	72
表10 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と 標準偏差値(2)	73
表11 各サヌカイト(安山岩)の原産地に おける原石群の元素比の平均値と 標準偏差値	74
表12 原産地不明の組成の似たサヌカイト (安山岩)製遺物で作られた遺物群の 元素比の平均値と標準偏差値(1)	75
表13 原産地不明の組成の似たサヌカイト (安山岩)製遺物で作られた遺物群の 元素比の平均値と標準偏差値(2)	76

表14 岩屋原産地からのサヌカイト 原石66個の分類結果	77
表15 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト 原石72個の分類結果	77
表16 西坪上高尾原遺跡出土黒曜石、安山岩 製遺物の非破壊不定形塊状分析によ る化学組成結果	77
表17 西坪上高尾原遺跡出土黒曜石製遺物の 元素比分析結果	78
表18 西坪上高尾原遺跡出土安山岩製遺物の 元素比分析結果	78
表19 西坪上高尾原遺跡出土石器 石材産地同定結果	79
表20 金山産地内各地点採取原石の 各群出現頻度	79
表21 測定資料及び処理	80
表22 放射性炭素年代測定 及び暦年較正の結果	81
表23 西坪上高尾原遺跡出土石器組成表 (礫石器を除く)	83

### 西坪下馬駄ヶ峰遺跡

表24 遺構名新旧対照表	93
表25 土器観察表	114
表26 石器計測表	114

## 巻頭図版目次

巻頭図版1 西坪上高尾原遺跡石器出土状況  
(北西から)

巻頭図版2 1 西坪上高尾原遺跡石器出土状況  
(西から)  
2 西坪上高尾原遺跡出土石器

## 文中写真目次

写真1	西坪上高尾原遺跡全景(南東から)……	3	写真4	西坪下馬駄ヶ峰遺跡表土剥ぎ風景……	4
写真2	西坪上高尾原遺跡調査風景 (北から)……	3	写真5	西坪下馬駄ヶ峰遺跡調査風景 (SK 6・14 南から) ……	4
写真3	展示説明会風景……	3			

## PL.目次

<b>西坪上高尾原遺跡</b>					
PL. 1	1 調査地周辺の地形(南東から)				
	2 調査地周辺の地形(東から)				
PL. 2	1 調査地周辺の地形(西から)				
	2 調査地全景(右が北)				
<b>西坪下馬駄ヶ峰遺跡</b>					
		5	SK 2	土層断面(南東から)	
		6	SK 2	遺物出土状況(南東から)	
		PL.10	1	SK 2	検出状況(南東から)
			2	SK 3	完掘状況(北東から)
			3	SK 3	土層断面(南東から)
			4	SK 4	完掘状況(南東から)
			5	SK 4	土層断面①(北西から)
			6	SK 4	土層断面②(南東から)
		PL.11	1	SK 4	検出状況(北から)
			2	P 1	土層断面(南東から)
			3	P 2	土層断面(南西から)
			4	P 3	土層断面(南東から)
			5	P 9	土層断面(西から)
			6	1区	基本層序(南東から)
		PL.12	1	2区	完掘全景(南東から)
			2	SD 4	完掘状況(南から)
			3	SD 4	土層断面及び2区基本層序 (南西から)
		PL.13	1	道路遺構	完掘状況(南から)
			2	道路遺構	土層断面①(北から)
			3	道路遺構	土層断面②(北西から)
		PL.14	1	AH	[黒曜石]
			2	AH・AHBk	[黒曜石]
			3	Dr	[黒曜石]
			4	Sc	[黒曜石]
		PL.15	1	RF・UF	[黒曜石]
			2	Fl・Bk	[黒曜石]
			3	Sc・PE・Cr・BT	[黒曜石]
			4	Sc・RF・PE・Cr	[黒曜石]
			5	Fl・PESp	[黒曜石]
			6	Bk	[黒曜石]
		PL.16	1	Cr	[黒曜石]
			2	Cr	[黒曜石] 接合資料(1)
			3	Cr	[黒曜石] 接合資料(2)
			4	石材産地同定試料	[黒曜石]
			5	調査地内出土石器	[安山岩等]
			6	石材産地同定試料	[安山岩等]
		PL.17	1	1区	出土台石

PL.18	1	1区出土石斧・礫石器	3	SK15 貼床?除去後状況(南東から)
	2	1区出土土器	4	SK15 新段階 底面検出状況(南から)
			5	SK15 貼床?土層断面(南東から)
			6	SK15 上層土層断面(南東から)
<b>西坪下馬駄ヶ峰遺跡</b>				
PL.19	1	調査地周辺の地形(北東から)	PL.28	1 SK16 完掘状況(南から)
	2	調査地全景(右上が北)	2	SK16 土層断面(南東から)
PL.20	1	SD 1 完掘状況(西から)	3	SK17 完掘状況(東から)
	2	SD 1 土層断面(南西から)	4	SK17 ⑧層上面硬化面検出状況(南から)
	3	SK 1 完掘状況(北西から)	5	SK17 土層断面①(南東から)
	4	SK 1 土層断面(南東から)	6	SK17 土層断面②(北西から)
	5	SK 1 底面ピット 土層断面(南西から)	PL.29	1 SK18 完掘状況(東から)
	6	SK 2 完掘状況(西から)	2	SK18 土層断面(南から)
PL.21	1	SK 2 土層断面(西から)	3	SK19 完掘状況(南東から)
	2	SK 2 検出状況(南から)	4	SK19 底面⑧層検出状況(東から)
	3	SK 3 完掘状況(東から)	5	SK19 底面⑧層土層断面(南東から)
	4	SK 3 土層断面(北東から)	6	SK19 土層断面①(南から)
	5	SK 4 完掘状況(東から)	PL.30	1 SK19 土層断面②(南東から)
	6	SK 4 土層断面(西から)	2	SK20 完掘状況(東から)
PL.22	1	SK 5 完掘状況(北西から)	3	SK20 土層断面(東から)
	2	SK 5 底面ピット 土層断面(北から)	4	SK21 完掘状況(北西から)
	3	SK 5 土層断面(北から)	5	SK21 土層断面①(西から)
	4	SK 6・SK14 完掘状況(西から)	6	SK21 土層断面②(南から)
	5	SK 6 完掘状況(東から)	PL.31	1 SK22 完掘状況(南東から)
	6	SK 6 土層断面(南から)	2	SK22 土層断面(東から)
PL.23	1	SK 7 完掘状況(東から)	3	P 1 完掘状況(西から)
	2	SK 7 底面ピット 土層断面(南から)	4	P 1 土層断面(西から)
	3	SK 7 土層断面(南東から)	5	P 2 土層断面(西から)
	4	SK 8 完掘状況(東から)	6	P 3 完掘状況(北から)
	5	SK 8 底面ピット 土層断面(北西から)	PL.32	1 P 3 土層断面(北西から)
	6	SK 8 土層断面(北西から)	2	P 4 完掘状況(北から)
PL.24	1	SK 9 完掘状況(南から)	3	P 4 土層断面(北西から)
	2	SK 9 土層断面(西から)	4	P 5 土層断面(北西から)
	3	SK10 完掘状況(南から)	5	P 6 完掘状況(西から)
	4	SK10 底面ピット 土層断面(南から)	6	調査地東壁 基本層序(北西から)
	5	SK10 土層断面(南から)	PL.33	1 調査地内出土土器(1)
	6	SK11 完掘状況(東から)	2	調査地内出土土器(2)
PL.25	1	SK11 土層断面(南から)	3	調査地内出土石器
	2	SK12 完掘状況(南西から)		
	3	SK12 底面ピット 土層断面(北西から)		
	4	SK12 土層断面(北西から)		
	5	SK13 完掘状況(北西から)		
	6	SK13 底面ピット 礫検出状況(北東から)		
PL.26	1	SK13 底面ピット検出状況(南東から)		
	2	SK13 土層断面(北西から)		
	3	SK14 完掘状況(西から)		
	4	SK14 底面ピット 土層断面(南から)		
	5	SK14 底面ピット検出状況(西から)		
	6	SK14 土層断面(南東から)		
PL.27	1	SK15 完掘状況(西から)		
	2	SK15 下層土層断面(南東から)		

# 第1章 調査の経緯

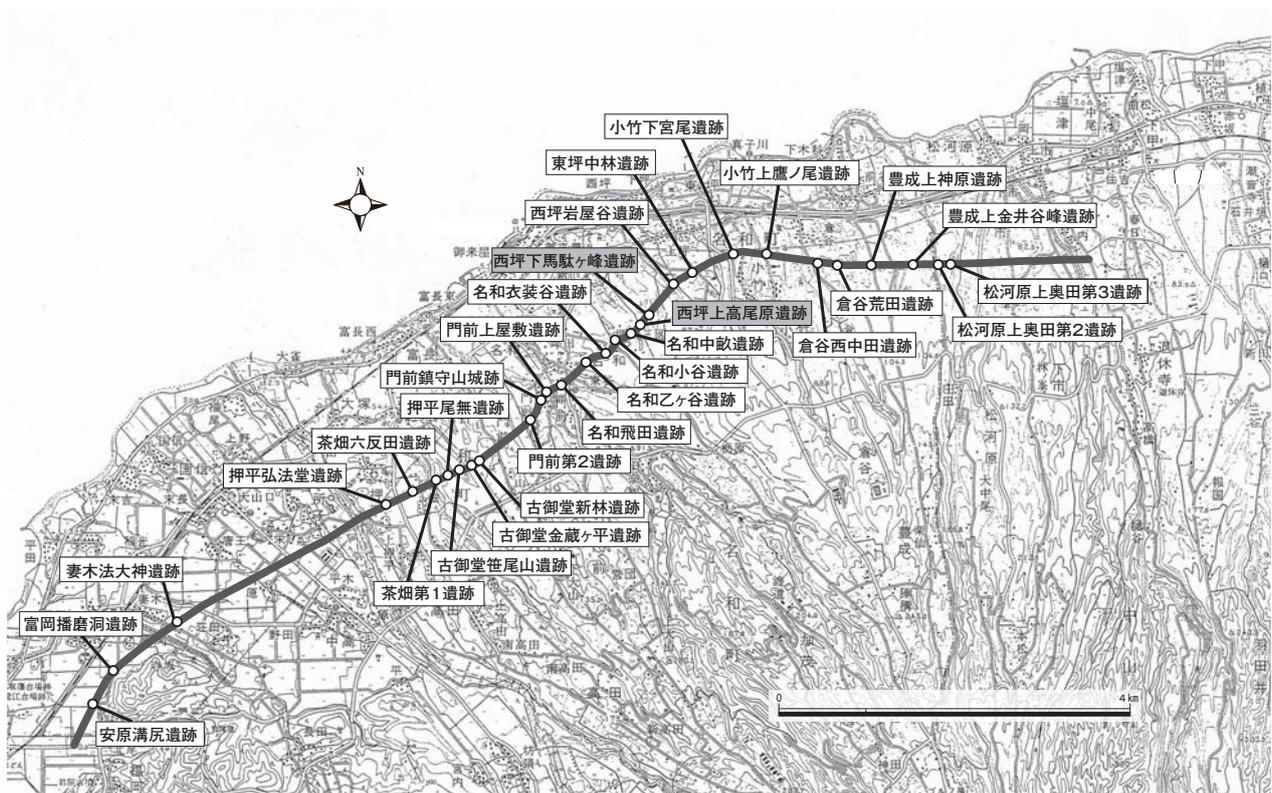
## 第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成21年度に一般国道9号名和淀江道路の改築に伴い実施した、周知の埋蔵文化財包蔵地(以下、遺跡と記載)の発掘調査である。発掘調査を実施した遺跡は、西伯郡大山町西坪地内に所在する西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められている。鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町内における名和淀江道路の計画地内及び隣接地には多数の遺跡が所在し、建設に先立ち計画地内の遺跡の有無、範囲、内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成2年度から大山町、名和町の各教育委員会(いずれも当時)、平成19年度の大山・名和両町合併後からは大山町教育委員会により、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が実施された。平成20年度には、鳥取県埋蔵文化財センターが確認調査を実施した。

その結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成12年度から平成16年度にかけて財団法人鳥取県教育文化財団が調査主体となり、安原溝尻遺跡など17箇所の遺跡において本発掘調査を実施し、続く平成17・18年度は鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、門前上屋敷遺跡など4箇所の本発掘調査を行い、各調査報告書を刊行した。平成20年度は引き続き鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、小竹下宮尾遺跡など2箇所の本発掘調査を実施したほか、小竹上鷹ノ尾遺跡など9箇所の遺跡において確認調査を行い、平成21年度に調査報告書を刊行した。



第1図 名和淀江道路関係遺跡位置図

平成21年度は、西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡が本発掘調査の対象となった。

【参考文献】

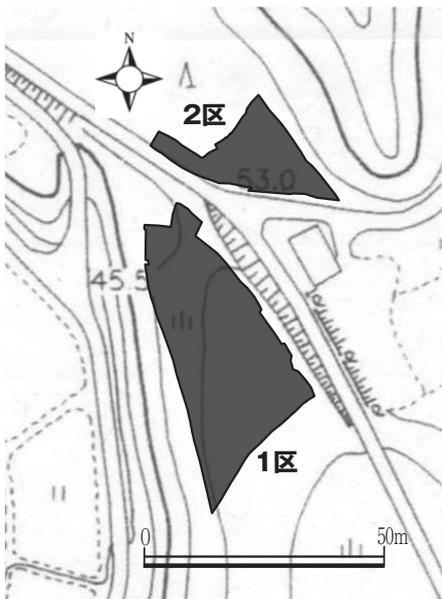
鳥取県埋蔵文化財センター 2010『小竹下宮尾遺跡 西坪岩屋谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書29

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査区の名称と調査方法

西坪上高尾原遺跡の調査前の状況は雑木林であった。調査地内は、南東から北西方向に敷設された私道が縦断しており、分断された調査地の南西側を1区、北東側を2区と呼称することとした(第2図)。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、D3杭(X:-54810m、Y:-74770m)、I4杭(X:-54860m、Y:-74780m)などとなった。標高値は、平成18年度名和地区外路線測量業務で実施された3級水準測量における成果を基準とした。

西坪下馬駄ヶ峰遺跡の調査前の状況は山林で、西坪上高尾原遺跡の北東約150mに位置する。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッド



第2図  
西坪上高尾原遺跡調査区位置図

を設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭の名称を採り、座標は、C3杭(X:-54710m、Y:-74650m)、H5杭(X:-54760m、Y:-74670m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H18-2-8の45.289mを使用した。

本発掘調査では、検出した遺構・遺物の記録に光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

### 2 本発掘調査の経過

西坪上高尾原遺跡の調査は、2月22日から26日に調査前地形測量、3月11日に調査前航空写真撮影、4月6日から9日に重機による表土剥ぎを実施し、表土剥ぎ終了後4月20日に方眼杭の打設を行った。なお、調査前航空写真撮影、重機による表土剥ぎ、方眼測量・方眼杭打設は西坪下馬駄ヶ峰遺跡と併せて実施した。4月16日から発掘作業員の稼働を開始し、9月3日まで遺構検出・掘り下げ、及び遺構の実測作業などを行った。その後、9月8・9日に調査後地形測量を実施し、発掘調査に係る現地におけるすべての作業を終了した。

調査の結果、溝4条、土坑4基、道路遺構1基を検出した。また、縄文時代に帰属する多数の石器

が出土し、本遺跡において黒曜石製の石鏃を中心とした石器製作が行われていたことが判明した。調査面積は1,278㎡である。

西坪下馬駄ヶ峰遺跡は、7月27日から遺構検出・掘り下げ作業に着手した。以後9月14日から16日の重機による堆積土掘削を挟みつつ現地作業を進め、10月16日に調査後航空写真撮影、10月23・24日に調査後地形測量を実施し、遺構の掘り下げ、実測作業などを経て10月29日に現地での全ての作業を終了した。

調査の結果、縄文時代の落とし穴と考えられる土坑14基、詳細な時期は不明ながら貯蔵穴の可能性がある土坑2基、時期・性格不明の土坑6基、溝1条を検出した。調査面積は5,600㎡である。

11月8日に倉谷西中田遺跡の現地説明会を開催した際、会場の一角に展示スペースを設け、西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡で出土した遺物の一部や写真パネル等を展示し、展示説明を実施した。

## 調査日誌抄

### 西坪上高尾原遺跡

2月22日	調査前地形測量開始		核等検出状況写真撮影
3月11日	調査前航空写真撮影	6月16日	2区遺構検出作業に着手
4月6日	重機による表土剥ぎ開始	7月23日	1区完掘全景写真撮影
4月16日	発掘作業員稼働、調査開始	8月31日	2区完掘全景写真撮影
4月20日	方眼測量実施	9月8日	調査後地形測量開始
5月20日	1区H3グリッド遺物検出状況写真撮影	9月9日	現地作業終了
6月3日	1区H3グリッド台石、黒曜石製石	11月8日	倉谷西中田遺跡現地説明会において、遺物、写真パネルを展示、解説



写真1 西坪上高尾原遺跡全景(南東から)



写真2 西坪上高尾原遺跡調査風景(北から)



写真3 展示説明会風景

### 西坪下馬駄ヶ峰遺跡

- |       |                            |        |                 |
|-------|----------------------------|--------|-----------------|
| 2月22日 | 調査前地形測量開始                  | 9月17日  | 遺構検出作業等を再開      |
| 3月11日 | 調査前航空写真撮影                  | 10月16日 | 調査後航空写真撮影       |
| 4月6日  | 重機による表土剥ぎ開始                | 10月23日 | 調査後地形測量開始       |
| 4月20日 | 方眼測量実施                     | 10月29日 | 遺構測量作業終了、現地作業終了 |
| 7月27日 | 遺構検出作業に着手                  |        |                 |
| 9月14日 | 重機による堆積土掘削開始<br>(9月16日に終了) |        |                 |



写真4 西坪下馬駄ヶ峰遺跡表土剥ぎ風景



写真5 西坪下馬駄ヶ峰遺跡調査風景  
(SK6・14 南から)

### 第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所長	久保 穰二郎
次長	中尾 淳一
総務係	
副主幹	福島 良
主事	浜辺 奈都美

発掘事業室

室長	山栴 雅美(兼調整係長)
調整係	
調査員	岩垣 命

調査担当(琴浦調査事務所)

副主幹	牧本 哲雄(総括責任者)
文化財主事	加藤 裕一(調査担当責任者)、長尾 かおり、北 浩明、油利 崇

## 第2章 遺跡の立地

### 第1節 遺跡の立地

西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市からは東へ約20kmの位置にある。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝麗山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、南北に細長く不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km<sup>2</sup>を測り、人口は約18,800人(平成20年末)の農畜産漁業・観光を主な産業とする町である。

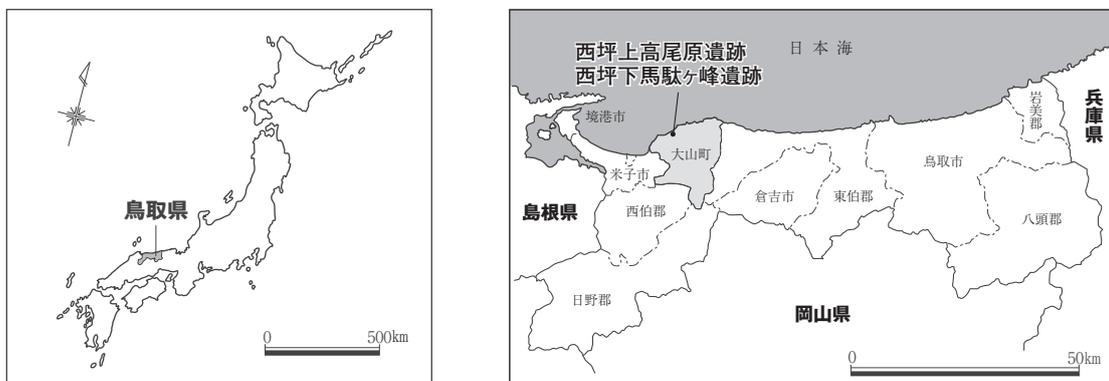
本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

日本海に面した地域では、御崎港、御来屋港を中心に沿岸漁業が盛んで、特にウニ・板ワカメは特産品になっている。町域北側から中部域は、農業を中心とした第1次産業が盛んである。低地では水田、台地上ではブロッコリー、スイカ、果樹などの栽培が盛んである。旧名和町地域は台地上にあるという特性から、多数の溜め池が形成され、農業用水として利用されている。町域南側は、高原を利用した畜産が盛んであるとともに、国立公園にも指定され、大山寺・大神山神社などの著名な文化財もある。また、冬季には多くのスキー客で賑わっており、四季を通じて多くの観光客が訪れる県内でも屈指の観光地になっている。

西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡は同町のほぼ中央、海岸線から約1.5kmに位置する。

西坪上高尾原遺跡は、標高約50～55mの狭い丘陵上に立地している。

西坪下馬駄ヶ峰遺跡は、西坪上高尾原遺跡の北東に約150mの丘陵上に立地する。調査地の北東側は谷地形を呈し、斜面となる。標高は約50～56mを測る。



第3図 遺跡位置図

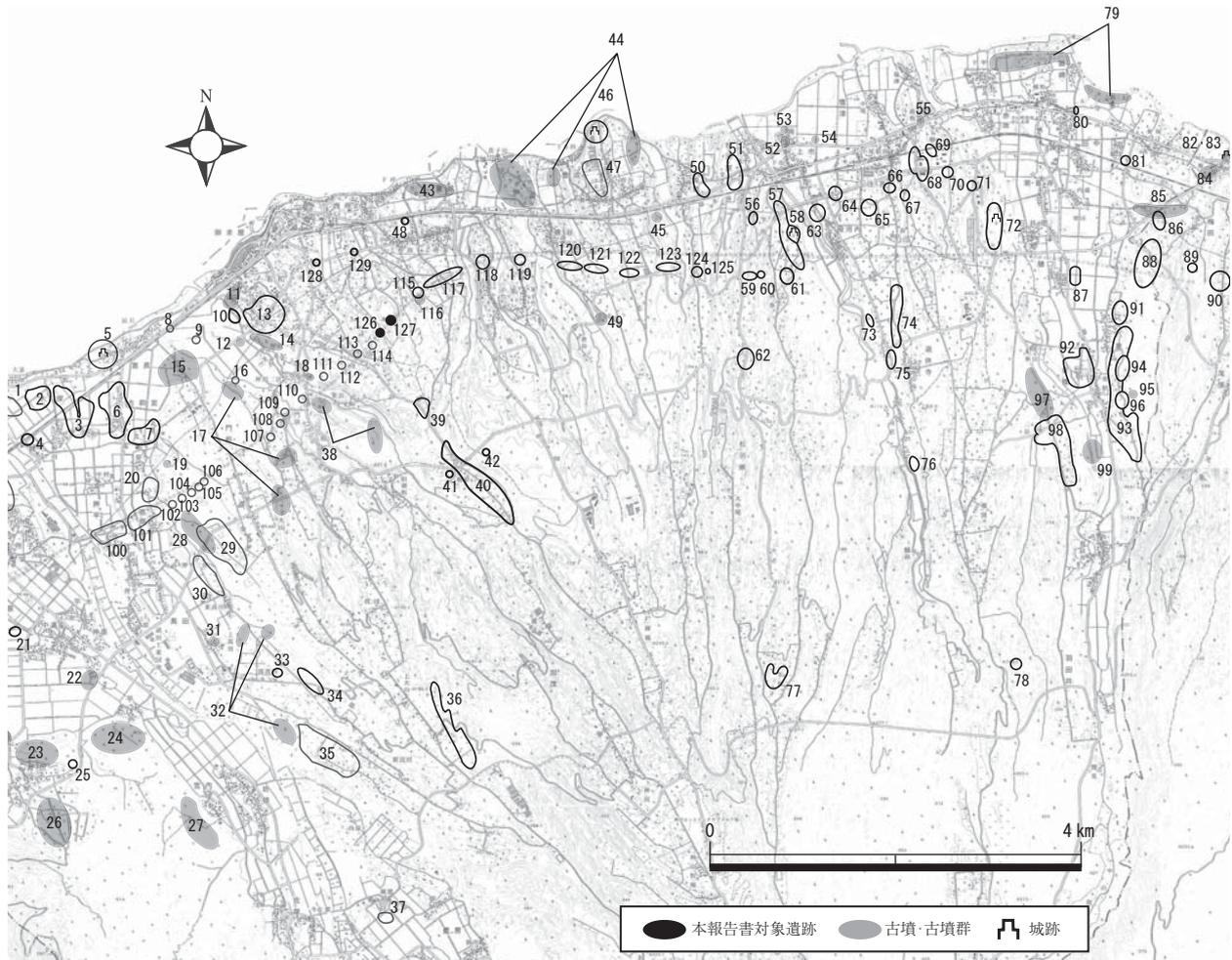
## 第2節 周辺の遺跡

**旧石器時代** 近年大山山麓では、発掘調査によって後期旧石器遺物が確認されるようになった。門前第2遺跡(西畝地区 107)では、AT火山灰層以下(25,000年以前)で黒曜石製ナイフ形石器・黒曜石剥片を含む石器群が確認されている。その他、出土層位は明確ではないが、名和小谷遺跡(113)では黒曜石製国府型ナイフ形石器が、押平尾無遺跡(103)では角錐状石器が出土している。

**縄文時代** 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。退休寺、羽田井、上大山、大仙道、陣構、坊領、荘田などでは、草創期と考えられる有茎尖頭器、局部磨製石斧が表採されている。早期では、門前第2遺跡(菖蒲田地区)で押型文土器とともに10基の配石群、名和飛田遺跡(110)では早期末から前期の土坑が検出されている他、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(71)、退休寺飛渡り遺跡(75)、古御堂金蔵ヶ平遺跡(105)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)、高田第4遺跡(34)、蛇居谷遺跡、大道原遺跡、塚田遺跡、蔵岡第1遺跡(37)、茶畑山道遺跡(20)などで押型文土器等が出土している。前期では、石器製作址と推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(59)、玦状耳飾が出土した名和乙ヶ谷遺跡(111)がある。中期では、黒曜石製石器を主に製作していたと考えられる名和中畝遺跡(114)、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡(63)などがある。後期では、南川遺跡(9)で石組炉を備えた住居跡、晩期では、大塚第3遺跡(1)で住居跡が見ついている。その他、落とし穴が八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡、門前上屋敷遺跡(109)、門前第2遺跡、小竹下宮尾遺跡(118)、西坪岩屋谷遺跡(119)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

**弥生時代** この地域では前期の遺構は少なく、大塚岩田遺跡(2)で環濠の可能性のある溝が検出されている他、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)、上野第1・2遺跡、塚田遺跡、大道原遺跡などで土器が出土している程度である。中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡、殿河内落合遺跡(73)、押平弘法堂遺跡(100)、名和飛田遺跡、門前上屋敷遺跡等が挙げられる。また、茶畑山道遺跡、茶畑第1遺跡(102)では独立棟持柱を備える大型掘立柱建物、分銅形土製品、搬入土器をもつ集落が検出され、当該地域の拠点的な集落と考えられている。後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、大塚塚根遺跡(3)、押平尾無遺跡、茶畑第2遺跡(29)、茶畑六反田遺跡(101)、茶畑第1遺跡、東高田遺跡(30)、小竹下宮尾遺跡など丘陵上に集落遺跡が多数造営される。その中で、複数の丘陵上に展開する国史跡妻木晩田遺跡は、弥生時代中期以降夥しい数の住居・倉庫、四隅突出型墳丘墓、環濠などが作られるなど、集落研究にとって重要な遺跡である。首長居宅と考えられる竪穴住居と近接して祭殿と考えられる二面庇の高床建物も確認されている。終末期には墳墓として、徳楽方墳(25)、松尾頭1・2号墓、門前1号墓(107)がある。

**古墳時代** 古墳時代に入ると大型前方後円墳が各地に出現する。当該地域では、各時期において前方後円墳は確認されていない。前期では、小規模な方墳が茶畑第1遺跡で確認されているにすぎない。当該地域の古墳は、ほとんどが中期から後期にかけてのものであるが、中期のものうち、高塚古墳(54)、ハンボ塚古墳(12)は、葺石・埴輪などの外表施設を持つ大型円墳で、首長墳の内容を持つ。後期になると御崎古墳群(79)、東積古墳群(99)、三谷古墳群(97)、高田古墳群(32)、門前古墳群(17)、豊成古墳群(43)、坪田古墳群(14)、富長山村古墳群(15)、蔵岡古墳群、宮内古墳群(27)、平古墳群(24)などが形成されている。このうち、御崎古墳群では塊石を用いた箱式石棺を有し、鳥取県中部地域に



- 1 大塚第3遺跡 2 大塚岩田遺跡 3 大塚塚根遺跡 4 大塚屋敷遺跡 5 富長城跡 6 古御堂遺跡 7 文殊領屋敷遺跡 8 荒田遺跡 9 南川遺跡 10 馬郡遺跡 11 名和公園裏古墳群  
 12 ハンボ塚古墳 13 長者原遺跡 14 坪田古墳群 15 富長山村古墳群 16 門前第1遺跡(門前礎石群) 17 門前古墳群 18 長綱時古墳群 19 原3号墳 20 茶畑山遺跡  
 21 清原遺跡 22 中高遺跡 23 長田古墳群 24 平古墳群 25 徳楽方墳 26 源平山古墳群 27 宮内古墳群 28 茶畑古墳群 29 茶畑第2遺跡 30 東高田遺跡 31 高田26号墳  
 32 高田古墳群 33 高田原廃寺 34 高田第4遺跡 35 高田第10遺跡 36 上大山第1遺跡 37 蔵岡第1遺跡 38 梶原古墳群 39 角塚遺跡 40 梶原遺跡 41 梶原寮跡  
 42 上寺谷遺跡 43 東坪古墳群 44 豊成古墳群 45 豊成28号墳 46 長野城 47 浜ノ坂遺跡 48 龍光寺掘遺跡 49 倉谷横穴墳 50 松河原第1遺跡 51 松河原第2遺跡  
 52 岩屋堂古墳(岡古墳) 53 岡3号古墳 54 高塚古墳 55 曲松古墳群 56 築地峯東通遺跡 57 林之峯東通遺跡 58 天守山遺跡 59 下市築地ノ峯東通第3遺跡  
 60 下市築地ノ峯東通第2遺跡 61 要害ノ峯遺跡 62 築地ノ峰第3遺跡 63 細工塚遺跡 64 向畑遺跡 65 住吉第4遺跡 66 住吉第1遺跡 67 住吉第2遺跡 68 小松谷遺跡  
 69 林之峯遺跡 70 下甲抜堤遺跡 71 赤坂後山遺跡 72 岩井垣城跡 73 殿河内落合遺跡 74 退休寺遺跡 75 退休寺飛渡り遺跡 76 退休寺第1遺跡 77 二本松遺跡  
 78 羽田井遺跡 79 御崎古墳群 80 御崎第2遺跡 81 田中川上遺跡 82 筥津城 83 筥津古墳群 84 坂ノ上古墳群 85 梅田(栄田)古墳群 86 六ツ塚遺跡  
 87 樋口第1遺跡(樋口遺跡) 88 梅田宮峯遺跡 89 梅田東前谷遺跡 90 筥津乳母ヶ谷遺跡 91 八重第3遺跡 92 樋口第2遺跡 93 八重第4遺跡 94 八重第1遺跡  
 95 岩屋平古墳 96 八重第2遺跡 97 三谷古墳群 98 三谷遺跡 99 東積古墳群 100 押平弘法堂遺跡 101 茶畑六反田遺跡 102 茶畑第1遺跡 103 押平尾無遺跡  
 104 古御堂笹尾山遺跡 105 古御堂金蔵ヶ平遺跡 106 古御堂新林遺跡 107 門前第2遺跡 108 門前鎮守山遺跡 109 門前上屋敷遺跡 110 名和飛田遺跡 111 名和乙ヶ谷遺跡  
 112 名和衣裳谷遺跡 113 名和小谷遺跡 114 名和中畝遺跡 115 西坪岩屋谷遺跡 116 西坪岩屋谷古墳 117 東坪中林遺跡 118 小竹下宮尾遺跡 119 小竹上鷹ノ尾遺跡  
 120 倉谷西中田遺跡 121 倉谷荒田遺跡 122 豊成上神原遺跡 123 豊成上金井谷峰遺跡 124 松河原上奥田第2遺跡 125 松河原上奥田第3遺跡 126 西坪上高尾原遺跡  
 127 西坪下馬駄ヶ峰遺跡 128 名和下菅蒲谷遺跡 129 西坪三軒屋遺跡

第4図 周辺遺跡分布図

特徴的に見られる壺型埴輪が出土しており、他地域との交流が窺われる。また、岩屋堂古墳(52)、長野2号墳、岩屋平古墳(95)、三谷16号墳、東積11号墳、高田26号墳(31)・27号墳、茶畑12号墳、豊成28号墳、蔵岡古墳群、宮内1・2号墳、平狐塚古墳など切石積み横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域までの同一文化圏を形成している。また、高田25号墳は、横穴式石室内に家形石棺を内包する。当該域は、豊成横穴墓群など横穴墓群も形成されており、古墳築造集団より下位に位置付けられる墓制も混在する地域である。この時代の集落は、依然丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の茶畑第1遺跡、中期から後期の押平尾無遺跡、古御堂笹尾山遺跡(104)、名和中畝遺跡、大塚塚根遺跡、仁王堂遺跡、住吉第2遺跡などがある。名和川の河岸段丘上には名和飛田遺跡、門前上屋敷遺跡がある。

**古代** 7世紀後半以降、山陰地方で仏教文化受容の痕跡が認められる。現在県内で見つかった22カ所の古代寺院のうち、当該地域には高田原廃寺(33)がある。ここでは、乱石積基壇や溝状遺構が検出さ

れ、上淀廃寺式の単弁十二葉蓮華文軒丸瓦が出土している。

当該地域の古代の行政区画は、汗入郡東積郷、汗入郷、奈和郷、尺度郷、高住郷に属する。馬郡遺跡(10)、長者原遺跡(13)は、『延喜式』に記載された古代山陰道の和奈駅(奈和の誤記か)として推定されている他、長者原遺跡では礎石建物、区画溝、大量の炭化米がみつまっていることから、汗入郡の正倉とも推定されている。大塚屋敷遺跡(4)では、倉庫群と考えられる掘立柱建物群が見つまっている。細工塚遺跡では大型の掘立柱建物群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力層の建物と想定されている。名和衣装谷遺跡(112)では2棟の大型掘立柱建物や鉄滓、緑釉・灰釉陶器が見つかり、郡司層の居宅又は郡衙下部の鉄生産に関わる遺構と考えられている。栃原窯跡(41)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷遺跡(42)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。茶畑六反田遺跡では、条里区画の一部と見られる溝が検出され、緑釉陶器や墨書土器が出土している。また、名和乙ヶ谷遺跡、小竹下宮尾遺跡では道路状遺構が検出されている。平安時代末期には末法思想が広まる中、和鏡8枚などを含む壹宮経塚が作られている。

**中世** 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。門前上屋敷遺跡では、中世の田畠跡の他、屋敷地を区画すると考えられる大溝、貿易陶磁が検出されている他大規模な造成が認められ、居館又は寺院跡の指摘もある。門前礎石群(16)は、青白磁・染付などの出土から中世以降の礎石建物と考えられる。旧名和町域には名和氏一族に関わるとされる旧跡が各所に見られる。その他、籠津豊後守敦忠の居城とされる岩井垣城(72)、天守山城、香原山城、松尾城などの他、富長城(5)、長野城(46)、末吉城、福尾城など日本海沿岸部にも多く砦跡が築かれている。門前鎮守山城跡(108)では、大規模な土塁・堀切が検出された。門前第2遺跡では、中世から近世・近代にかけての大規模な墓地が形成されている。

**近世** 寛永9(1632)年に池田光仲が鳥取藩主となり、因伯は幕末まで池田氏の治世となる。この時代、御来屋は伯耆街道の宿駅、藩の運上米の積出港として重要な位置を占めた。

#### 【参考文献】

名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』

鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』

鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』

鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』

内藤正中・真田廣幸・日置叡左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』山川出版社

鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)

発掘調査報告書類については割愛させていただいた。